

# 2019 年 後期 景況調査報告書

2019 年 7～12 月期 実績

2020 年 1～6 月期 見通し





**徳之島三町商工会**

(令和 2 年 1 月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について四半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。













この報告書の中で用いられている D・I 指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

## ＜お天気マークの説明＞

	特に好調 +30.0 以上		好 調 +29.9～ +10.0		まあまあ +9.9～ ▲9.9		不 振 ▲10.0～ ▲29.9		極めて不振 ▲30.0 以上
---	---------------------	---	------------------------	---	-----------------------	--	------------------------	---	----------------------

- |            |  |
|------------|--|
| 1. 調査対象期間  | 2019 年 7～12 月期を対象とした。2020 年 1～6 月期は予測値となる。   |
| 2. 調査方法    | 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。   |
| 3. 調査対象商工会 | 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会  |
| 4. 回答企業    | 対象企業 29 企業<br>製造業：6 企業 建設業：5 企業 小売業：9 企業<br>サービス業：9 企業<br>(※徳之島の 29 企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。) |

## 島内産業別業況 D I

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
<b>前期比</b>	(2019 年 1 月～6 月期)		27.8		0.0		▲ 29.6		3.7
<b>前年同期比</b>	(2018 年 7 月～12 月期)		20.8		▲5.0		▲ 25.0		▲2.8
<b>来期見通し</b>	(2020 年 1 月～6 月期)		0.0		0.0		▲ 16.7		11.1

### 総合（業況）

前年同期（2018 年 7 月～12 月期）と比較した今期（2019 年 7 月～12 月期）の業況は、製造業 20.8、建設業▲5.0、小売業▲25.0、サービス業▲2.8 となった。業況は前年同期と比較して、製造業とサービス業では好調となつて、建設業は横ばい、小売業では極めて不振となった。製造業では、商談会等への積極的な参加等企業努力が実った事業者の影響もあり売上・資金繰りともに極めて好調となった。建設業では、人手不足が深刻化しており完成工事額は不振となったが採算、資金繰りに関してはともに横ばいとなった。小売業では、増税後に大型店舗への顧客流出に拍車がかかり売上額、採算及び資金繰りともに依然厳しい状況にある。サービス業ではキャッシュレス決済導入の有無等により増税後の顧客獲得の明暗がはっきり分かれているが、全体的には売上額及び資金繰りともにやや不振となっている。

小売業においては、その厳しさが継続的に増しており深刻な状況にある。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 6 企業

		売上額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(2019年1月～6月期)		33.3	-	-		33.3		16.7
前年同期比	(2018年7月～12月期)		33.3		0.0		33.3		16.7
来期見通し	(2020年1月～6月期)		▲16.7		▲16.7		0.0		33.3

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・商談会やメディア露出等の影響により島外取引が活発化して業況が好調になっている。

#### 経営上の問題点

- ・生産設備の不足・老朽化、原材料価格の上昇などが挙げられた。

### 【建設業】 有効回答数 5 企業

		完成工事額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(2019年1月～6月期)		0.0	-	-		0.0		0.0
前年同期比	(2018年7月～12月期)		▲20.0		0.0		0.0		0.0
来期見通し	(2020年1月～6月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・人手不足の深刻化により工期に遅れが生じている。

#### 経営上の問題点

- ・従業員の確保難、熟練技術者の確保難を筆頭に、材料価格の上昇が挙げられた。

### 【小売業】 有効回答数 9 企業

		売上額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(2019年1月～6月期)		▲33.3	-	-		▲22.2		▲33.3
前年同期比	(2018年7月～12月期)		▲22.2		▲22.2		▲22.2		▲33.3
来期見通し	(2020年1月～6月期)		▲22.2		▲22.2		0.0		▲22.2

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・増税後さらに顧客が減少し、業況の厳しさが増している。

#### 経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化が最も多く挙げられ、その他には同業店の進出、購買力の他地域への流出、需要の停滞、消費者ニーズの変化への対応、人件費の増加などが挙げられた。

## 【サービス業】 有効回答数 9 企業

		売上額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(2019年1月～6月期)		0.0	-	-		▲11.1		22.2
前年同期比	(2018年7月～12月期)		▲11.1		0.0		▲11.1		11.1
来期見通し	(2020年1月～6月期)		11.1		11.1		0.0		22.2

### ＜調査対象企業が感じている景気判断コメント＞

- ・前年が台風の影響で特に業況が悪かったため比較したら良くなっているだけ。
- ・増税後に価格を上げたことで必然的に売上が上がった。

### 経営上の問題点

- ・利用者ニーズの変化への対応や従業員の確保難、材料等仕入れ単価の上昇、需要の停滞などが上位を占めている。また店舗の狭隘・老朽化を問題とする企業もある。

《参考となるその他の景況から》

2019年12月13日  
日本銀行鹿児島支店

## 鹿児島県金融経済概況

### 【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかな回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、振れを伴いつつも、底堅く推移している。観光は、底堅く推移している。住宅投資は、貸家を中心に弱含んで推移している。公共投資は、増加している。

生産は、弱含んでいる。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、高水準で推移している。また、人手不足感は、強い状況が続いている。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、改善している。

### 【各論】

#### 1. 個人消費

- 百貨店・スーパー販売額、家電販売額、乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回った。

#### 2. 観光

- 主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回って推移している。

#### 3. 公共投資

- 公共工事請負金額は、前年を下回った。

#### 4. 住宅投資

- 新設住宅着工戸数は、持家と貸家を中心に前年を下回った。

#### 5. 生産

- 鉱工業生産指数（季節調整済）は、窯業・土石製品、電子部品・デバイスを中心に前月を上回った。

#### 6. 雇用・所得環境

- 有効求人倍率（季節調整済）は、高水準で推移している。  
現金給与総額は、前年を下回って推移している。  
常用労働者数は、前年を上回って推移している。

#### 7. 物価

- 消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年比0%程度となっている。

#### 8. 金融面

- 預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。  
貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。  
企業倒産件数は、低水準で推移している。